令和４年度　第３回タウンミーティングの概要

１　団体名　　市民協働「熊谷の力」小江川地区１０００本桜事業
　　代表者　　事務局長　岡部　幸夫

２　開催日等
（１）開催日　令和４年１１月４日（金）
（２）会　場　江南公民館研修室Ａ
（３）テーマ　１３年目を迎えた桜事業の維持管理の現状と将来像について

３　意見交換の概要
※ [　　] 内はミーティング終了後、所管課で補足したものです。

市民　初めに「１０００本桜（神代曙 ジンダイアケボノ）の現状報告」です。
かつて小江川地区の里山は荒廃し、ごみの不法投棄に悩まされていました。なんとか美しい自然と環境を取り戻そうと地元住民らが立ち上がりました。２０１０年度に、熊谷市市民協働「熊谷の力」事業に「地域のふるさとの森保全事業（小江川地区１０００本桜)」として応募し採択されました。１０年計画で１０００本の桜を植栽することを目標とし、桜の苗木は「公益財団日本花の会」が生産する「神代曙」に決定しました。１０年目の計画達成時には記念式典を行いました。今年１３年目を迎え、私たち１２人を中心に、草刈りが主ですが、桜の成長と共にじゃまになる近隣の大木の伐採などの保全作業を行っています。
植栽本数は、現在１１５０本です。近隣にも千本桜といわれる名所がいくつかあって、１０００本なくとも千本桜で通っているようですが、私どもは名実共に１０００本です。神代曙の本数では全国一と言われています。ソメイヨシノが日本の桜の代名詞になっていますが、ゆくゆくはそのソメイヨシノに肩を並べるようになるという方もいます。神代曙のルーツは、神代植物公園（調布市）のはぎ園の西に原種が今も存在しており、そこから、接ぎ木をして増やしたということです。
この小江川地区の桜並木を歩く市主催「春の江南里山ウォーキング」は、今年で５回目を迎え、例年８０名前後の人が参加されますが、毎回桜も好評で皆様に温かく見守られていることを実感しています。年ごとに進化するというイメージがぴったりの「小江川１０００本桜」かなと思っています。また、今年の三月に「さくら募金」をスタートし、皆さんから厚意のお金も頂いておりますので、今後の活動に生かしていきたいと思っています。

市長　皆さん方の熱心な活動に感謝します。神代曙は、ソメイヨシノに似た桜で

ちょっと色が濃いめという説明をいただいたことがあります。今、気になるのがクビアカツヤカミキリの被害ですが、ソメイヨシノと比べてどうですか。

市民　特に、行田、熊谷の桜が相当被害を受けたと聞いています。幸いなことに私どもの神代曙は、今現在、全く被害を受けていません。ソメイヨシノに比べて強い品種と言われています。

市長　荒川の熊谷桜堤はクビアカツヤカミキリの被害を大きく受けています。だいぶ植え替えていますが、高齢化も進んでおり大変厳しい状況のようです。「小江川１０００本桜」は、熊谷の桜の名所の一つとしてＰＲしているところですので、改めてホッとしています。

市長　春のウォーキングの参加状況はいかがですか。

市民　市で募集しているのですが、応募が多いので、毎年、募集の締め切りを早めていると聞いています。以前１２０人くらい参加したときに、トイレをお寺に借りるのですが数が少なく、そこで３、４０分も休憩になってしまったことから、参加者を８０人前後に絞っているようです。

市長　ここは全部歩くと何キロくらいありますか。

市民　ハイキングコースは１２キロメートル、桜並木は５．２キロメートルです。

最初は線で植えていこうと、１０メートル間隔でスタートしたのですが、４年目に息切れしてしまい、面による植栽を併用するようになりました。県道４７号線を挟んで東コース、西コースとあって、西コースは、丘陵が緩やかでお年寄り向きなので、老人ホームの入居者にも大変喜ばれています。

それから、日本花の会が発行する全国版の季刊誌「花の友」に特報記事が掲載されました。全国的に神代曙の出荷本数が増えて、植栽事例の問い合わせが増えたことから、小江川１０００本桜が２ページにわたり紹介されました。

市長　私も、コースを歩く機会がなかったのですが、車で通ると目に入ります。たぶんほとんどの人が、ソメイヨシノだと思うでしょう。ぱっと見てこれは神代曙ですねとわかりますか。

市民　家の前の小山に、ソメイヨシノと神代曙を並べて植えてありますが、朝起きて見るとすぐわかります。神代曙は開花時期が１週間くらい早く、咲き始めてから比較すると神代曙はピンクが濃く、ソメイヨシノは白だということが良くわかります。

市長　来年の「２０２３全国さくらシンポジウム in 熊谷」には、小江川の神代曙も紹介したいと思っています。自衛隊のさくら祭や熊谷のさくら祭のソメイヨシノは、なかなかタイミングよく咲いてくれませんので、あちらがだめでもこ

こなら大丈夫という案内もできると、少しホッとしました。

市民　次に「維持管理の現状・・里山観光名所へのステップ」です。維持管理はいろいろありますが、５点ほど上げています。

１点目は、１０年計画を達成し３年目の維持管理がスタートしたということです。実際には維持管理は、１１年目からではなく、２年目から始まっており、今は維持管理が中心です。希望があれば新しい苗木を植えていますので、毎年若干増えていきます。自分で植えたい方のために苗木の手配もしています。今年は非常に少なく５２本です。半分は、立ち枯れや作業中の手違いで切ってしまった場合や、冬場に野ウサギにかじられて育たなくなった苗木などの植え替え用です。

２点目は、メンバー１２人の平均年齢が７５歳で、若い後継者が入ってこないということです。草刈りも、急な斜面や切り株が隠れているなど危険な状況もあって大変ですが、なかなか新しい人が見つかりません。

市民活動支援センターの登録団体が約２３０あり、頻繁にセンターを活用しているのは５０くらいです。そういう団体の責任者と話すと、最初の２、３年は一生懸命やるのですが、３、４年目には、大分くたびれてきて誰か後継者がいないかなとなってしまうようです。

私どもは、自治会で活動を立ち上げているので、助成金の申請なども自治会で行います。県や企業も自治会の活動ということで大分評価してもらえます。

市長　誰から見ても立派な実績ができています。あとは後継者の問題があるようですが、地域の皆さんでやっているからまとまりがあるのではないでしょうか。若い人なら誰でもと外の人を入れると、運営がうまくいかなくなることもあるかもしれません。

皆さん方が新熊谷市と合併後間もなく始めたこの事業は、新熊谷市を一つにまとめてくれる価値ある事業の一つだと思います。人を集めるのは大変ですが、少しずつ解消されると思いますし、もしもの時には、広報を通してＰＲできればと思います。

市民　次に３点目の作業内容ですが、メインは草刈、伐採で、剪定、施肥、場所によっては消毒もします。５、６年経つと原因はわからないのですが苗木が枯れてしまうことがあり、植え替え作業が入ってきます。

次に４点目の植栽域です。植栽距離は５．２キロメートル、ここを年３回草刈り作業を実施しています。できれば年２回ぐらいにしたいのですが、雑草の勢いが止まらず一回りすると最初のところがかなり伸びてしまいます。桜の木が４、５メートルに成長すると木の下は雑草の生育が遅くなるので草刈りが楽になり

ますが、きつい作業もありますので、いい方法はないか模索しているところです。
５点目は維持管理費用の捻出です。草刈り機やチェーンソーの刃、燃料代やオイル代、飲料水など年間最低１０万円くらいかかります。今年は「公益信託熊谷環境基金」から一部を助成いただきました。

市民　次に「ＰＲ(認知)活動」です。
この事業を知ってもらうために、ＰＲ（認知）活動も積極的に行っています。ビフォーアフターという写真を撮ってパネルに仕立てています。最近は見所紹介というパネルを作って、開花状況や見所紹介などをしています。また、紙芝居を作って小中学校や自治会などで上演し、桜事業の活動を紹介しています。これ以外に、「ため池にすむ妖怪カッパの願い」という紙芝居も作りました。
２点目の活動によってもたらされた成果ですが、忘れられたものが発見されました。まず、２００年前の石碑です。かつて小江川地区にあったお寺のものでした。後世のために看板をつけて管理保存しました。あとはオオタカが棲む環境になりました。今まで江南地区にはいなかったオオタカが、桜を面で植栽してからよく見かけるようになりました。また、荒廃地で光も入らないような水路を整備したところ、カワニナが生息し、４０年ぶりに蛍が飛び交うようになりました。
３点目のＰＲポイントですが、一番のポイントは神代曙の花のピンクです。特に女性はそのピンクに驚き、歓声を上げます。ソメイヨシノに比べて遙かにピンクが濃いのです。つぼみが膨らんでまさに咲かんとするときが一番濃く、八分咲の頃も相当濃いピンクになり、散り際に少しずつ白くなります。
私どもの植栽地は、農道、林道に面する場所で、秋には紅葉、春先には新緑と非常に変化に富み、桜だけではないこともＰＲしています。
桜の見所として紹介しているのは、一つは保泉寺の裏の林道です。ここは唯一両サイドに桜を植えた場所で約２００メートルあります。花が満開になると枝が重さで垂れて、肩口まで降りてきて桜のトンネルになります。
二つ目は老人ホームの登り口の東斜面の植栽域です。ここは、朝日が当たり、緩やかな傾斜面で排水の便が良く、桜にとって最高の場所です。まだ、６年目くらいですが大きく成長しています。奥行きが１２０メートル、幅が３４、５メートルの面に３００本以上植えてあり非常に壮観なものです。
市長　人が手を入れることで、オオタカが棲むようになるなど、逆に自然が帰って来るのはおもしろい。先日、「こうなん祭り」で「蛍が増えている。」ということを聞きましたが、おおもとがここにあったのかと理由がわかった気がします。
市民　きれいな水があるところに蛍がでます。蛍が出る水路の法面ばかり一生懸命掃除するのではなく、周辺の山林もきれいにする必要があります。
市長　下草をきれいにしたからここを流れ水もきれいになるという循環ですね。

市長　廃寺の石碑は、誰かに読んでもらったのですか。
市民　石碑には、石碑を寄付した周辺の住民の名前が入っていました。３、４代も前の人でしたが、誰々さんの先祖かなというのが何軒かあります。

市民　次に「その他」ですが、簡単に説明します。
１点目の市民の声ですが、この桜を見に来る人から、駐車場、トイレはと言われます。簡単にいかないと説明していますが、そういう要望があります。
２点目の厚意の賽銭ですが、最初の年に植えた地区に、以前その土地を使っていた石屋さんが置いていった布袋様の石像があります。どういうわけかそこに賽銭が上がるようになりました。せっかくなので桜の通帳に入れました。数百円ですが、金額の多寡ではなく、厚意としてありがたくいただいています。
３点目はさくらシンポジウムですが、私どもも協力することになっています。

市長　来年の４月に熊谷市でさくらシンポジウムが開催され、皆さん方には事例発表でお世話になります。そのときにいくつか見学コースを作って、市内の桜の名所をお客さんに案内したいと思っています。小江川１０００本桜もコースに入れさせていただく事になると思います。そうすると、人を連れて来たのはいいけれど、「トイレがないぞ。」と言われると困ったなと。
このコースは、一つは桜、もう一つはウォーキングと二つのテーマがあります。桜はシーズンが限られますが、健康法として、ウォーキングは１年を通して使えるキーワードです。桜とその他を併せることで、駐車場やトイレについて何か案が出れば良いのかなと考えながら話を聴きました。
里山ウォーキングの参加者を絞っているという話もありましたが、もし設備が整えば、参加者も相当増えるのではないかと思います。今も、車で来る人がいると思いますが、桜が大きくなればなるほど観光化されて、安全を考えて対処しなければならないだろうと思います。

（スポーツ観光課）「2023全国さくらシンポジウム in 熊谷」では、岡部事務局長に、「住民の夢が叶った1000本桜事業」と題して、活動事例報告をお願いしています。
また、2日目に実施予定の現地見学会では、市内に設定する3つのコースの中に、小江川地区の1000本桜の見学が予定されています。
（環境政策課） 簡易トイレを設置できる候補地を選定し、3月の里山ウォーキング、4月の桜シンポジウムにおいて使用できるよう調整していきます。また、駐車場については一定の広さの土地確保が必要であること、整地等が必要なことを考慮しながら今後も検討していきます。